

平成二十六年（第2回）高校生世代「人権の詩」  
【入選】

散ってしまった命へ

影山朋未

今日命がひとつ消えました

魂のぬけたその体は

とても冷たく

人形のようにある「もの」でした

先日まで確かにいた「ひと」が

記憶の中にいる「ひと」が

突然消えたのです

なんて人は簡単に死ぬのでしょうか

まるで電池が切れたように

その命がそこまでしか生きられないと

決められていたように

私はあなたに何をしてあげられたでしょう

あなたからの愛情に

感謝の気持ちも示さないまま

もうあなたに会うことができせん

それでも

毎日「おかえり」と言ってくれてありがとうございます

料理を教えてくれてありがとうございます

叱ってくれてありがとうございます

いつも笑っていてくれてありがとうございます

私はあなたの笑顔が大好きでした

そして何より

今まで育ててくれてありがとうございます

私はこれからあなたからももらったものを

誰かに与えていける人になれるでしょうか

まだ「これから」ばかりの私には

誰にどうやって伝えればいいのか

わかるはずありません

私がおくる長い人生の中で

あなたのようにたくさんの愛情を

与えられる人になりたい